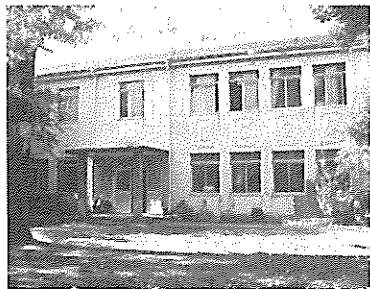


CBC NEWS

長 年に涉って検討されてきた学校キャンパスの移転問題は、去る七月の総会に於いて移らないことに決定し、新しく学生寮の建築及び図書館の新たな建設等にしばられて準備が進められることになりました。

寮の建て替えに関しては、耐用年数を超えていることもあって早くより折られてきましたが優先順位のはじめにあります。総合的計画の中でも早急に着手することが望まれています。図書室の充実が次に続き、蔵書の増加と共に、読書室の拡大が早急に必要とされております。

CBC NEWS
原吹き
vol.9



中央聖書学校校長
佐布正義

蔵書数は毎年の予算の枠もありますが、現在の二倍、三倍に達することを目標しております。神学的書物を献本してくださる方がおられますらば幸いです。

歴史的、伝統的な駒込に於いて、教育施設の充実をはかると共に、教育訓練の内容もいよいよ充実して本校の目的達成に邁進する覚悟を新たにしております。皆様方のお祈りと支援を切に願う次第です。

「何世代にもわたって祈られ、祝福されてきたこの土地で学び、伝道できる恵みをもう一度実感しています。」(女性)

「学生のより充実した学びと訓練のため、施設が充実すること、感謝します。多くの働き人が後に続き、また新しい歴史が刻まれていくことを楽しみにしています。」

(男性)

静心

ついこのあいだの日曜日のこと。派遣教会に行く途中、電車を乗り間違えてしまった。全く気づかずに、車内で聖書を読むこと二十分。気がつくとう東京駅にいた。正反対の恵比寿駅にいた。気持ち焦るもの、どうしようもない。電車を乗り変えても、後悔の思いはなかなか消えなかった。

ぼーっと外の景色を見ていると、ディズニランドの入場ゲートが見えてきた。そこに群がる蟻のように小さく見える人々の姿。きれいなシンデレラ城。遠くから眺めると、見たことのあるものも何か違ったふうに見える。まもなくして海が見えてきた。朝日に照らされてきらきらと光る水面がまぶしく、しばらくその景色に見入っていたら、いつのまにか気持ちが楽になっていた。

そのままたの景色を眺めながらふと一週間の振り返った。なんだかスケジュールをこなすことに追われ、常に自分の思いが先立っていたように思えた。

「夕があり、朝があった。」すべてのことに先立つのは常に神様の恵みである。日々この「恵みのリズム」を感じ、神様との生きた交わりを持っていきたいものだと思う。

(C・T)

CBC NETWORK

中央聖書学校教師研修会が六月三〇日から七月二日まで軽井沢コンチネンタル・ホテルにおいて開かれ、学校移転問題やカリキュラムの改訂などについての討議が行われた。

夏期研究科の講師としてAPTSからウォンスク・マ博士が招聘され、ダビデ・ハイムス師とともにそれぞれ旧約神学とイザヤ書を担当した。

後期聖別会には熊谷福音キリスト教会牧師渡辺正晴師が講師としてメッセージを取り次いで下さり、教師・学生ともども祝された集会を持つことができた。

恒例の遠足日(十月十三日)は、バスガイドもこれほど美しい富士山を見たことがないと驚くほどの素晴らしい秋晴れで、教師も学生も箱根の秋色を満喫することができた。

十月二十九日の学生祈祷会にマレーシア・アッセンブリー教団理事長のプリンス・グネラトナム師がご奉仕下さった。神の御心を知るといメッセージや、異言のメッセージに応答した学生達は遅くまで恵みの座で折り、豊かな御霊の取り扱いを受けた。

早期入学試験が十一月五日に行われ、七名の献身者が関東・関西の教会から集まり、面接を受けた。そのうち二名が男性、五名が女性で、牧師子弟は二名であった。

来年一月十二日から二週間にわたって開校される冬期研究科に、ロバート・メンジース博士がペンテコステ神学の講義を担当して下さる。中央聖書学校には何度かこられたウイリアム・メンジース博士の次男で、将来を嘱望されている米国アッセンブリー教団の若手の神学者である。同時に佐布正義校長が現代神学を担当する。

十一月十日、学生二十名で四十数年継続されている全生園訪問を行った。

十一月十八日から二十一日までひらかれた教団総会で、新しい理事長に菊山和夫師が、学校理事長に杉本俊輔師が選出された。また来年度からの中央聖書学校の新しい校長に北野耕一師が承認された。

後援会のご案内

中央聖書学校が教団の伝道者養成期間として発足以来、すでに四十六年を数えておりますが、その間多くの方々のご協力と献げ物と奉仕によって幾多の伝道者、働き人がこの学舎から輩出されたことは感謝であります。

さらに学校の設備に充実とゆとりのある運営がなされるためには、多くの方々のご賛同を必要としております。どうぞこの点をご理解をいただき、是非本会にご入会くださるよう心よりお願い申し上げます。

中央聖書学校後援会

会長 山田 亘

後援会入会要領

個人会員 一口年五千元
法人会員 一口年一万元

☆連絡は中央聖書学校内後援会宛にお願いいたします。

編集

後記

神学校の生活の一週間は驚くほど早い。目の前の仕事をこなすのに精一杯ということが多い。

そんな中で、一体どれだけイエス様との交わりができているだろうかと思問する。ただ忙しくしていることが、主のために生きていくように勘違いしてはいないだろうか。マルタのように忙しさに心奪われることなく、マリヤのように主の足下に座ってじつと御言葉に聞き入るという事を失わないようにしたい。

(N・M)

編集スタッフ 新聞部部員

ステイブ・ブーン・ピーターソン

別宮 健一 田中 千香子

三宅 規之

編集責任者 北野耕一

事務局 中央聖書学校

豊島区駒込三二一五二〇

FAXTEL 〇三三九一八四九二五

〇三三九一八四〇六四

シリーズ献身 Vol.9



我に従え

大森 園子

あの日の情景が今も尚、鮮明に浮かびます。一九五四年四月入学式の前日、そぼ降る小雨の中、一緒に上京する父と私を見送る母を背に、その姿が見えなくなる迄、何度も何度も振り返りつつ、家を出たあの日の事を……

卓上には心をこめて作られた幾つかの母の手料理があり、家族揃っての夕食を、淋しさをいながら頂いた前夜の光景に、ふっ……と涙を浮かべて車中の人となったのでした。

“我に従え”と仰せになった主の御言葉を命令としてお受けし、神を見あげつつその第一歩を踏み出す途に、一年半の月日が流れていました。

“わが行くみち いついかになるべきかは つゆ知らねど主はみこころ なしたまわん”この先何が起ころうとしているのか。その術を知らず、

主を信じて凡てを委ねて校門をくぐったのでした。学舎に入って、より近く主を見上げ、そのご愛に涙するとともに、被造物が創造主の前に出るご臨在の厳さに、畏敬の思いが一層深められ、神に従うことのきびしさ、喜び、感謝が溢れました。

恵の幾年月——アバ父よと呼びまづる事を許されている故に、神の偉大さ、神ご自身へのフォボスの念は日々新たにされております。

マタイやピリポにかけられた“我に従え”の同じ御言葉を生ける主より戴くとは……永遠に繋がる時の刻みの中で感無量の昨今でございます。多くの諸先生方、内外の主にある諸兄弟のお祈りとご指導をいただき今日ある事を心よりお礼申し上げます。

終末の近いこの時、収穫の如に遣わされる主の弟子達がこの学舎からも続々と送り出され、神の御業が押し進められて神に栄光が帰せられますよう切に祈り上げつつ。

中央聖書学校学生募集

主の御声を聞いています者よ、来なれ！
入学資格：受洗後2年以上を経た忠実な教員
高校卒業以上
住所：豊島区駒込3-15-20
電話番号：03-3918-4925
※入学案内は所属教会牧師にお申し出下さい。

ご協力をお願いします

いつも、学校、学生のために祈りと尊い献げものを心から感謝しています。昔と比べてワープロやパソコンを持っている学生が増えたとはいえ、まだもてない学生もいます。そのような学生のために、よろしければ、使わなくなったワープロやパソコンを献品していただけないでしょうか。よろしくお願いいたします。

内村徹母師がこの度藍綬勲章を受賞した。内村師は教師になって約二〇年間、少年院で少年達に、愛や優しさ、いたわり、他人への気遣いなどを説いてきた。聖書を題材に話をする事はあっても、少年達に宗教観をおしつけたりすることは無いという。少年達は、家庭にも学校や社会にも無視され、「自分の存在を認めて欲しい」と寂し

少年に愛注ぎ二〇年

がつているケースが多い。「同じ目線で話を聞く」姿勢を持ち続けると、初めは返事もなかった少年達が次第に「自分」を語り始めるという。

受賞について、「少年院の職員の人たちの苦勞を思うと、自分には身に余る光榮」と言う。

「少年たちの心の叫びに耳を傾けるのが自分の役目」と師は言う。

(十一月二日読売朝刊より抜粋)

祈禱班紹介

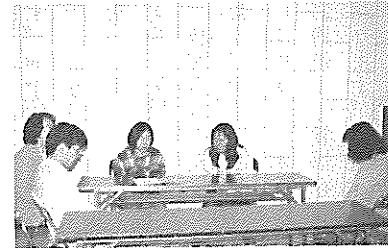
学生たちの自主的な活動の一つとして祈禱班の活動があります。授業やその他の活動の合間に、その地域や事物に重荷のある学生達が集まり、共に祈る時を持っています。今回はその祈禱班の活動について紹介しましょう。

海外宣教師祈禱班

毎週火曜日に集まり、世界宣教のために祈っています。日本のためだけでなく、迫害や様々な困難な状況下に置かれている国々のため、全世界の福音化のために祈りを捧げ、とりなしの祈りをもって世界宣教に携わるといふ一つの思いで行っています。

具体的には、アッセンブリ教団の海外宣教師や国内宣教師のために、また、北朝鮮、イスラエル、中国のためには特に各国の直面している問題を覚えて祈り、さらに、この中央聖書学校の中から宣教師が起こされることも祈り求めています。

祈っています



光臨道・東北祈禱班
祈り会は毎週水曜日の授

関西祈禱班
メンバー全員が関西出身者で、毎週木曜日にそれぞれの母教会の週報を持ち寄り、具体的に祈りの課題を挙げて祈りを捧げています。また関西祈禱班出身のOB・OGの先生方のため、関西のリバイバルのため、関西分校のため、またメンバーの学生同士のためにも祈っています。

業後に行っています。北海道出身の二名の学生を含むこの祈禱班では、北海道・東北の諸教会のために祈りを捧げています。現在は東北出身の学生がいらないため、東北地方の具体的な祈りの課題や、北海道の諸教会の祈りの課題を知り、そのために祈っています。いとの声が上がっています。

全米宣教師祈禱班

毎週水曜日に祈り会を行っています。メンバーは主に、ハンセン病の方々の療養所である全生園を実際に訪問し、重荷をもった学生たちで、全生園の方々の救いと健康のため、学生たちの訪問のため祈っています。

関東・東北・北陸祈禱班
毎週水曜日の授業後に祈り会を持っています。お互いの母教会のため、派遣先の教会のため、各教会の伝道集会のために祈っています。特にこの祈禱班では、この地域の諸教会、また全日本のリバイバルのために、毎回熱のこもつ

た祈りを捧げています。また、メンバーの学生のためにも、お互いにとりなして祈っています。

沖縄祈禱班

毎週木曜日の授業後に祈り会を持っています。沖縄アッセンブリーの全教会の祝福のため、各教会の祝福のため、また沖縄の教会に派遣された学生から寄せられた祈りの課題のために祈っています。

以前、沖縄祈禱班では、沖縄からの献身者が起こされるように祈りが捧げられ、現在は沖縄出身者一人を含む祈禱班となり、今後も沖縄に重荷のある学生が起こされるように、との祈りがなされています。

祈禱班は学生の自主的な活動によるもので、年ごとに変わる面もありますが、今後もさらにこの祈りの働きが継続され、広がっていくことを期待せずにはいられません。諸教会の先生方、信徒の方々、祈りの課題がありましたらぜひお寄せください。

CBC 研究科...

教

職者の生涯教育を
目指すCBC研究科

中央聖書学校の研究科は、牧会・伝道に携わっておられる教職者に、生涯教育の機会を提供するために設置された修士課程である。入学資格は日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の教職者であること、または本校においてその資格を認めた者となっている。これまでに当教団の教職者ばかりではなく、他のペンテコステ教団の教職者も受講している。教職者であるという入学条件以外に、中央聖書学校卒業もしくはそれと同等の資格を有する者であること、また四段階評価システムによるB以上の成績を得た者という条件がつけられている。さらに、ギリシャ語の基礎学習を取得した者でなければならない。但し、その条件を満たしていない場合、別に設ける講座でその単位を取得することもできる。

研究科が開講したのは一九八九年七月で、アジア・太平洋神学セミナー(APTS)の学長であったウイリアム・メンジース博士と佐布正義博士がまず新約聖書神学と現代神学を担当、七名の教職者が受講した。それ以来、中央聖書学校の教授に加えて、聖書神学界では世界的に著名なゴードン・フィー博士や、アガベール・セラピーを開発したジャック・ロゼル博士、現在学監の重責にあるウォンスク・マ博士など、APTSで活躍する教授陣が入れ替わり質の高い講義を提供してくれた。福音主義神学校のハーバードとあだ名されるウィートン大学の旧約聖書の教授、ハッセル・ブロック博士を招いたこともあった。

今年の冬期研究科ではCBCのハイムス、北野両師が新約研究(中間時代)と宣教学研究(日本の福音化における東洋思想の功罪)を担当した。また夏期研究科の前半はハイムス師による旧約研究(イザヤ書)、後半はAPTSからウォンスク・マ博士を招待し、旧約神学を担当していただいた。三度目の来日であるマ博士は韓国生まれの旧約学者で、APTSにおいて神学修士号(M.Div.)を取得した後、しばらく教鞭を執り、学生主任として活躍し、その後、フラー神学大学に留学、そこで哲学博士号(Ph.D.)を取得して、昨年APTSに帰ってきたばかりである。マ夫人も同校で博士号を得、現在夫婦そろってセミナーの学生を教えている。

研究科委員会ではすでに二〇〇一年冬期研究科までの講師陣を内定しているが、そのうち外国から招聘される講師の中には、これからのアッセンブリー教団神学界を背負って立つといわれているロバート・メンジース博士(ウィリアム・メンジース博士の息子)や、『ルカにおけるカリスマ神学』で一躍有名になった

たロジャー・ストロンスタッド師、現在シンガポールで最も名声の高いトリニティー大学の学監であるサイモン・チャン博士などが含まれている。尚、一昨年アッセンブリー教団教職者の一人が卒業証書第一号を受け取り、現在三名が、卒業論文に挑戦している。研究科においては修士号を獲得するためには、聖書学、神学、実践神学の分野において三二単位の学科を修了した後、四単位の研究論文を提出しなければならない。提出された論文は指導教授と数名の審査員によって審査され、受理された時点で論文に関する面接試験を受ける。それにパスした者が卒業と認められる。

研究科は年二回中央聖書学校学生が長期実習に出かけている間に二週間にわたって開講される。



☆☆☆教職インタビュー

Vol.1

アンナ・ハイムス師

今号からこの中央聖書学校で教鞭をとっておられる教職の先生方を、インタビューを通してご紹介していきたいと思います。

まず最初の先生は、木曜日の夜の「Practical English」を担当して下さっているアンナ・ハイムス先生です。先生はご存じダビデ・ハイムス先生の奥様でもあり、また2人の娘を育てる母親でもあります。当校だけでなく、宣教師の子弟の小学校でも教え、ICIで奉仕しておられます。

現在「Practical English」の受講者は7名。テキストを使つての英語によるディスカッションが中心です。かなりレベルが高いと苦心している学生も多いのですが、単に英語だけでなく先生の聖書に対する知識や、信仰に刺激を受けることがしばしばあり、充実した講義となっています。

新聞部 : 2人のお子さんを育てながらのお仕事ですが・・・。

アンナ先生 : 一人はもうほとんど手がかからなくなったわ。

新聞部 : 子育てをされながらフルタイムで教師として働いていらっしゃるが、どうやって時間をつくるのですか。

(横から下の娘のエリザベス (EJ) が口を挟んで「子供が全部やっているから!」)

アンナ先生 : (笑) そうね。EJ も手伝ってくれるし。学校の仕事は学校でやるようにしているわ。計画を決めたらその通りにやるようにね。(目の前にある書類を指しながら) ICI の仕事は1週間に6時間かけているわ。これはアルバイトみたいなものね。以前はよくやっていた趣味も今では夏休みのあいだぐらいしかできないわね。仕事のことばかり考えて個人の時間はあまりないわ。仕事しているか寝ているかね。

新聞部 : どこからそんなエネルギーがでてくるんですか?

アンナ先生 : 朝早く起きて、早く寝ること。神様は私の健康を守ってくれて、とても感謝しています。病気にかかる心配をしたことはないわ。エネルギー源はそこね。

新聞部 : デボーションの時間は?

アンナ先生 : 朝早く。5時には起きてコーヒーと朝食をとりながら。朝の30分だけは個人の時間。

新聞部 : 学校で教えていて難しいと思うことは何ですか?

アンナ先生 : 一番難しいのは自分の子供に教えることね。大変なストレスを感じたわ。本当にうまくいってるかどうか分からないのだから。学校では生徒との関係を作るのが大変ね。学生のレベルに合わせて、出来ないことを無理矢理押しつけることのないようにしているわ。出来るチャレンジでも無理をさせて「もう出来ない」と諦めないようにね。



路傍

伝道と聞いて何をイメージする

でしょうか。神学校でも路傍伝道をしています。昨年度までは路傍伝道班が主に路傍伝道活動をしていましたが、今年度から全体路傍として、毎週金曜日の学生伝道集会の前に、説教者と司会者以外路傍伝道をする事になりました。

場所は駒込駅前と滝の川公園。時間は午後六時から七時まで。アピール、賛美、トラクト配布、個人伝道の担当を決めてしています。

期待と不安で始まったこの全体路傍も、回を重ねるにつれて慣れてきたということ、またこの路傍を通して、集会に導かれる人や救われる人が起こされ、救霊の思いが強められ伝道に取り組んでいます。それぞれの思いをもって臨んでいる、この全体路傍。ひとりひとりその働きは違いますが、これを通して、主の栄光が現される事を願いつつ、励んでいます。